

玉川大学蔵『聖經典林』について

中村 聡

2021年夏、玉川大学に所蔵されていた『聖經典林』が貴重書に指定され、貴重書庫に保管されることになった。『聖經典林』は縦30cm、幅18cmの綾装本仕立ての「聖書辞典」である。この書籍が貴重であることの第一の要因はその希少性による。CiNii Booksに登録されている『聖經典林』は、天理大学附属天理図書館に所蔵されているものが唯一である。かつて韓国の学者が日本の書店で1910(宣統2)年版を手に入れたというニュースを耳にしたことがあるが、寡聞にしてその後のことは聞いたことがない。なんにせよCiNii Booksでたった一件であるという事実から見て、相当な稀覯本と言って間違いはない。

1. 『聖經典林』の作者について

「聖經」とは、中国語で聖書を指す。現在出版されている聖書も中国ならば「圣经」であり、台湾であれば「聖經」ある。「典林」は辞典または事典といった意味に考えればよいだろう。つまり、聖書中に出てくる用語を解説した辞典と言える。作者は中国に派遣されていた宣教師である范約翰(Farnham, John Marshall Willoughby)とその夫人である范瑪利(Farnham, Mary Jane)、清国側では周松鶴、徐維繪、鐘子能という三名が名を連ねている。

ファーナムは1860(咸豊10)年に上海に着任した。ちょうどこの年に北京条約が締結され、欧米諸国は太平天国軍に対してははっきりとした敵対行動を起し始めた。特に上海や寧波の戦いでは英仏軍が積極的に参加し、太平天国軍は苦戦を強いられた。この後太平天国軍は徐々にその勢いを失っていくのだが、内戦によって生じた難民が上海を中心とした都市部にあふれていた。そのような状況の中、ファーナムは1861(咸豊11)年に清心書院(Lowrie Institute)を、翌1862(同治1)年には清心女塾(The Mary Farnham Girls' school)を開校して、教育事業を開始した。塾の学生の中には、太平天国の乱で難

民化した子供たちが多数含まれていたという。またこれらの塾の近くに清心堂という長老会派のチャペルも建設した。これらの学校では、国文、天文、地理、格物、算数などとともに、男子生徒には農作業、女子生徒には音楽や紡績技術なども教えていた。さらには印刷技術も教え、ファーナム自身が設立した「中国聖教会」に職を斡旋するというルートを作っていた。後に商務院書館を設立する夏瑞芳、鮑感恩、鮑咸昌、高鳳池なども清心書院の卒業生である。

メアリー夫人は女子塾の校長を務める傍ら、中華婦女節制会(Women's Christian Temperance Union)の会長を務め、生活に困難をきたしている婦女の精神面、生活面の援助を行った。特筆すべきは、最初に纏足の解放を提唱した一員となり、19世紀中国で女性の権利、自由を希求する運動を推進したことである。

三人の中国人については、校正担当の鐘子能についての資料は見つかっていない。ファーナム夫妻の口述筆記を担当したとされる徐維繪は、ファーナムの支援のもと、上海の沐恩堂で宋嘉樹とともに「中國基督徒會」を立ち上げた発起人としてその名が記されている。

校正を担当したとされる周松鶴については、内表紙に「四明松鶴周子詳爲校正」とある。清代の習慣として書籍にこのように書かれている場合、名前の前にあるのはその人の祖籍の地名である。ここで言われている「四明」は、行政区の名称ではない。これは浙江省四明山一帯を指している。四明山とは、浙江省寧波の西方にあり、天台山から北東方に連なる山一帯を言う。日月星辰に光を通ずる義から四明山と呼ばれる。とすると、周松鶴は浙江省四明山一帯の出身であると思われる。具体的にどのような人物であるのかということまでは判明していない。たぶん、地方のプロテスタント知識人であると思われる。周松鶴はファーナムの発刊した有名な『小孩月報』という児童向け雑誌では、「蛇龜較勝」という物語を書いている。後考を待つが、これはイソップの「ウサギとカメ」を「蛇と亀」に置き換えたものではないかと推察

される。

この「四明」出身の周松鶴については、もう一つの謎がついてまわる。ファーナムと同じ長老会の宣教師ウィリアム・マーティン⁽¹¹⁾の著した『天道溯原』の序言を書いた人物が、「四明范蓉埭」と名乗っている。四明の范蓉埭は、マーティンが寧波で宣教活動を行っていた時期に接触した人物で、清末という時代の中で比較的早くプロテスタントを受容している。マーティンが他の赴任地に移ってから親交が続き、1854（咸豊4）年に『天道溯原』の序を書き、さらに1858（咸豊8）には同じくマーティンの『諭道傳』にも序を書いており、その中では「企眞子曰」という形で注釈をつけている。他のキリスト教関係の書物では「四明企眞子」という名で序を書いている場合も見られる。たしかに寧波には早くから宣教師が訪れ、他の地域に比べて早くからプロテスタントが布教されていたとはいえ、同じ長老会のマーティンとファーナムの著作に関わったこと、四明出身で、クリスチャンということなどを考えると、周松鶴と范蓉埭は同一人物ではないかという疑いが生じてくるのである。

2. 『聖經典林』の歩んだ道程

今回貴重書に指定された『聖經典林』は、もともとはアメリカ合衆国カリフォルニア州で牧師として一生を捧げた福島熊蔵牧師が所持していた書籍である。

福島（旧姓福永）熊蔵は1882（明治15）年鳥取県倉吉市福光に生を受け、14歳で上京し、1898（明治31）年に麻布中学に編入し、1900（明治33）年に卒業した。在学中、校長の江原素六⁽¹²⁾から毎日聖書講義を受けてキリスト教信仰に目覚めたと言われる。霊南坂教会に出席するようになり、小崎弘道⁽¹³⁾牧師により洗礼を受けた。以後、小崎の設立した伝道師養成機関である東京伝道学校で学び渡米、1906（明治39）年にカリフォルニア州フレズノ⁽¹⁴⁾で牧師に就任した⁽¹⁵⁾。

ここで、福島牧師が赴任した年代と、その赴任地が日本からの移民の多いフレズノであったことが問題となる。

日本人のアメリカ移民は1885（明治18）年頃から増加傾向にあった。明治維新による土地や税制の改革で、日本の各地で貧困の格差に拍車がかかり、若い男性が職を求めてアメリカに渡っていった。1895（明治28）年、日本政府は官約移民制度を廃止し、移民手続きは民約移民会社に移行されたが、ハワイやカリフォルニア等への移民は続いた。特に1898（明治31）年にハワイ共和国がアメリカ合衆国に組み込まれると、それまでハワイ中

心であった移民先がアメリカ本土へと変わっていく。

初期の移民男性たちはアメリカで一旗揚げて日本に帰国することを望んでいたが、現実には文化・風習・言語等すべてが異なる異国の地では日々の生活をおくるのが精いっぱい、とてもではないが労働によって得た賃金で資産を増やすような状況ではなかった。しかしそのような状況の中でも、日本人移民は低賃金で真面目に労働することが認められ、徐々に重宝されるようになっていく。やがてその勤勉さが白人たちから仕事を奪う形になっていった。1900（明治33）年には各種の労働組合によって初めての大規模な反日抗議がカリフォルニアで行われ、1905（明治38）年にはアジア人排斥同盟がサンフランシスコで発足した。この同盟は労働指導者とヨーロッパ系移民とで結成されたもので、反日運動が初めて組織化されたものと言われている。日本人移民は移民当初は日本語しか話さず、アメリカ社会に馴染む姿勢を見せなかった。このような状況がさらに反日感情を煽っていくことにつながったものと思われる。しかし1908（明治41）年に日本とアメリカの間で紳士協定が締結され、日本からの移民労働者を制限する代わりに、アメリカに在住する者の妻である日本人女性に対しては移民が許可されるようになった。これを受けて1910年代になると、サンフランシスコを中心に日本からの「写真花嫁」が大挙して上陸し始めた。アメリカで仕事に従事する日本人男性のもとへ写真を取り交わしただけで嫁いでくるこれらの日本人女性とそのシステムは、多くのアメリカ人には受け容れがたいものであった。移民男性が定住を目標とするようになると、次々に家庭を形成しようとする。日本へ一時帰国して、結婚した後に妻を伴って帰米する者もいたし、親戚や両親からの仲介で家同士の結婚を取り交わす者もいたが、最も手軽な手段が「写真花嫁」であった。当時の日本人の感覚ではお見合い結婚の延長のように思われていたこのシステムではあるが、それを受け容れる側であるアメリカ人には到底理解できるものではなかった。写真⁽¹⁶⁾をやり取りしただけで、着物に束髪姿で、英語を話すこともできず、アメリカの生活様式も知らないままに渡米してきた彼女たちは、やはり受け容れがたい存在であったに違いない。

このような状況に対して警鐘を鳴らし、日本人移民女性たちに手を差し伸べようとしたのが、在米日本人クリスチャンを中心とした人々であった。実は日本でも渡米する女性たちのために教育が行われていた。その中核になったのは横浜YWCAだったと言われている。日本人キリスト教団体が行った渡米日本人女性のジェンダー教

育は、アメリカ社会に対しては近代的で西洋化された独立した日本人女性だと印象付けると同時に、日本人生産者の妻として慎ましく従順な単一化された集団を在米日本人コミュニティの中に作り上げるといふ二面性を内包したものであった。⁽¹⁷⁾横浜YWCAは桑港日本人基督教女子青年会と結びつきが深かったため、渡航婦人講習所を創設し、教育に当たったものと思われる。⁽¹⁸⁾

その受け入れ側に当たる桑港日本人基督教女子青年会（桑港日本人YWCA）が創立されたのは1912（大正1）年4月のことだが、その発起人として福島英子（ママ）の名が見え、その配偶者として福島熊蔵の名が見える。⁽¹⁹⁾福島は1911（明治44）年、フレスノ教会を辞し、久布白落実の学んだ太平洋神学校に入学し、サンフランシスコ組合教会の牧師に就任している。⁽²⁰⁾つまり、福島熊蔵牧師は、1910年代にサンフランシスコで「写真花嫁」を救済する活動に夫人と共に参加し、当地において日本人クリスチャン及び日本人女性の生活を支援していたことが理解できる。⁽²¹⁾

福島牧師は1924（大正13）年、小崎弘道牧師により長田時行牧師⁽²²⁾の後任として日本キリスト教団新潟教会に招聘されたが、フレスノ教会会員からの願いでアメリカに留まった。この新潟教会への招聘断念については、福島牧師の中に痛恨として残っていたようである。

福島牧師の最晩年に当たる1969（昭和44）年夏、新潟県の敬和学園高校の第一回「海外教室」の際に、当時の太田俊雄校長の手によって福島牧師の蔵書が初めて敬和学園にもたらされ、その後順次寄贈が進み、1973（昭和48）に全ての福島牧師蔵書が敬和学園にわたり、福島文庫として保管されるに至った。その総数は二千五百冊を超えられている。⁽²³⁾その後、福島文庫の整理が進む中、当時敬和学園高等学校教諭であった石川力先生が、筆者が19世紀に中国に渡来したプロテスタント宣教師の文献を研究していることを知り、福島文庫の中から貴重な二冊の著作を寄贈してくださった。一つが1907（光緒23）年版の『天道溯原』⁽²⁴⁾であり、一つがこの『聖經典林』である。⁽²⁵⁾

福島牧師がどの時点で『聖經典林』を手に入れたのかは不明である。が、本書が1904（光緒30、明治37）年の第二版であることからして、カリフォルニア在住当時に新本で手に入れたか、後になってから手に入れたものであろうか。どちらにしても1969（昭和44）11月に召天されるまでアメリカを離れることがなかった福島牧師であるから、アメリカで手に入れたことは間違いのないであろう。

小結

20世紀初頭、アメリカ人宣教師ファーナムを中心としたクリスチャンの手により上海の美華書館で印刷された中国聖教書会から出版された本書は、アメリカ合衆国カリフォルニア州に渡って福島牧師の蔵書となり、新潟県の敬和学園に寄贈された後に、玉川大学図書館にたどり着いた。出版されてから百十七年の間、その発行部数もわからず、歴史の表舞台に立つこともなかった本である。

内容についてはこれから研究しなければならないが、挿入されている挿絵だけを見ても精緻で、十分に研究に値するものだと考えられる。内容が聖書であることから、さまざまな分野、方面からの検討が必要とされると思われるが、その数奇な運命を理解した上での後考を待ちたいと思う。

追記

学術振興のために貴重な文献を賜った元敬和学園高等学校教諭である石川力先生に感謝を申し上げます。とともに、研究が今に遅れてしまったことを陳謝申し上げます。

また、『聖經典林』の図版を提供してくださった玉川大学教育学術情報図書館、論文掲載の労を担ってくださり、画像の処理等に一方ならぬお手伝いをいただいた池松香織さんに心よりお礼を申し上げます。

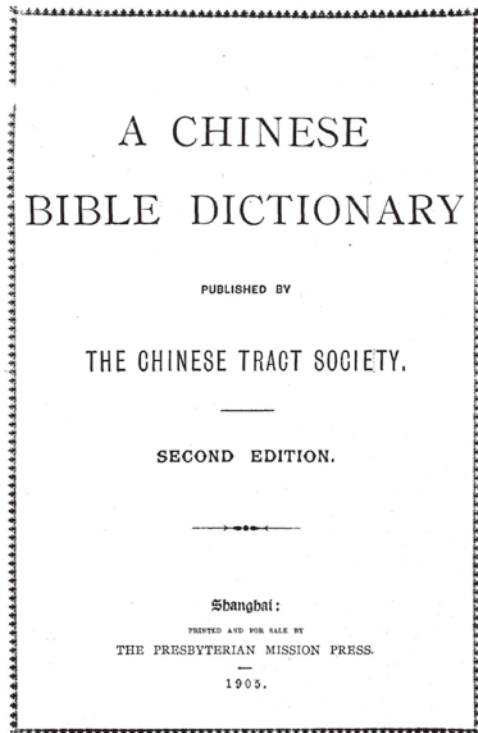
石川力先生、池松香織さん、本当に有難うございました。

〔資料解説〕

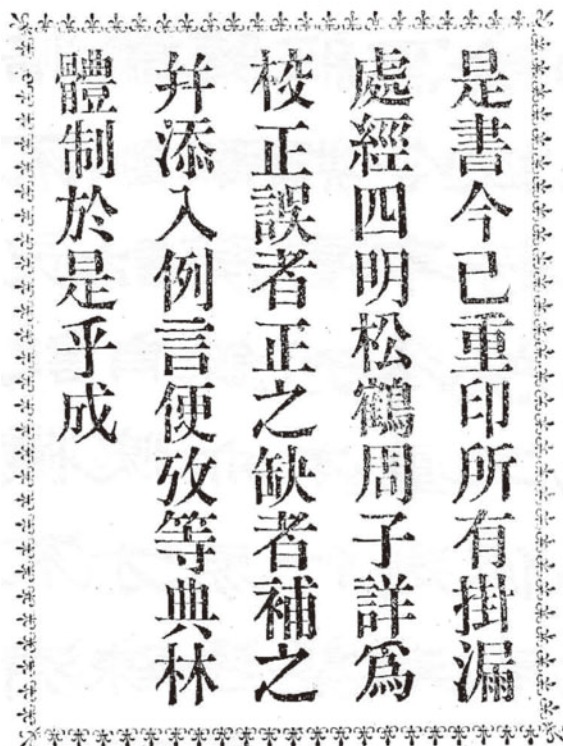
- ・【3】【4】【5】から、『聖經典林』は、ファーナム夫妻が原稿を書き、それを徐維繪が口述筆記し、鍾子能がスタイルを整えた上で、周松鶴が校正したものであることがわかる。
- ・【7】は、モーゼが率いるイスラエルの民がシナイ山近くにたどり着き、そこから選ばれた人々がシナイ山へとたどったルートが示されている。
- ・【8】【9】【10】は、『旧約聖書』出エジプト記25章以下に示される、幕屋とその内部の聖所、燭台、聖櫃について図入りで解説されている。
- ・【11】は、キリストが生きていたころのエルサレムの地図が示されている。当然、現在のエルサレム市内とはかなり異なっている。この地図が何に基づいて描かれたものであるのかは、未だ不明である。
- ・【12】は、当時のエルサレム神殿内部の鳥観図である。Aから始まる配置説明は重要な資料となるだろう。
- ・【14】【15】は、聖書に出てくる聖母を始めとする数多くの



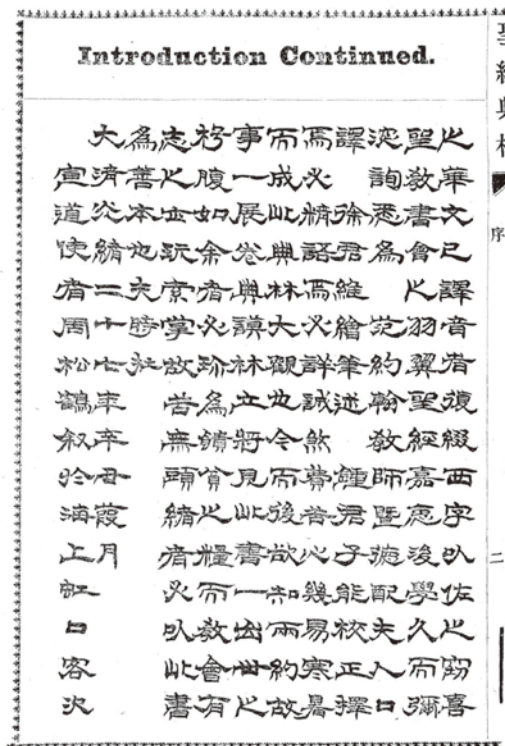
[1] 表表紙



[2] 裏表紙



[3] 內表紙



[4] 周松鶴による序文（後半部）

**INTRODUCTION
TO THE SECOND EDITION.**

THE early stage of missionary work in China has long since passed. The missionary's first great need was the Bible in the Chinese language. Thanks to the Bible Societies, that want has been well supplied. For a long time the missionaries and Chinese Christians have had the Word of God in their own language, in many versions, from numerous missionaries, and much of it in various dialects, as well as in different styles of type.

The Tract Societies have also published a vast amount of literature throwing light on the Sacred Word. Especial mention may be made of the commentaries on different books and portions of the Bible.

Just now the Chinese Tract Society is carrying through the press two Commentaries, from different authors, on the whole Bible, including both the Old and New Testaments.

Notwithstanding all these helps to the right understanding of the Word of God, a **BIBLE DICTIONARY**, with full explanation of the names of places and other difficult words, with good maps and illustrations, has long been a desideratum.

The present is an attempt to translate from the American Tract Society's able work those parts which it was thought the Chinese Christian would most need.

Others have helped, but Mr. Zee Ve-wae has translated the most of it, and Mr. Tsong Ts-nung has looked after the style. Mrs. Farnham has gone over the whole very carefully, and finally it has been passed on by the Chinese Tract Society's Examining Committee.

This Second Edition has been carefully revised, and is now sent forth with the prayer that it may help God's people, and especially His ministers, to better understand His own most precious Word.

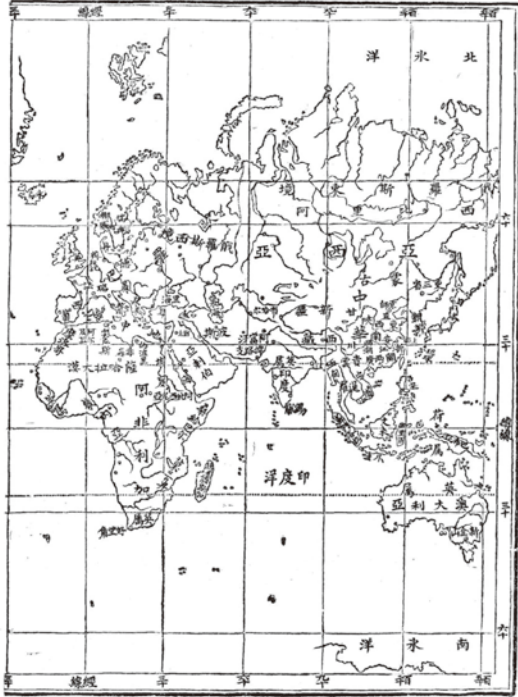
J. M. W. FARNHAM.

SHANGHAI, February 17th, 1905.

三系身本
英文序

[5] ファーナムによる英文序文

圖地洲大三 加利非阿 巴羅歐 亞西亞



[6] アジア・ヨーロッパ・アフリカ三大洲地図

撒西西
哩利拔
達大月
他或

聖經地理

於路旁大石上因聖人必須在此章中常畫一十字或繪作六畜等以作記號所寫之字甚為難解大抵先者係以色列人自埃及及至西乃山時所書者係主降世四百年後耶和華教人所書也近有人讀其文知係亞摩伯字譯即平安說解之意因乃之山為全地至聖之地因主數次臨格其上先在小樹火中現與摩西見也二越六百年先知以利亞達耶和華之聖主亦顯現於此見上十九章聖經亦言及主降律法時之威儀顯赫見上五章第六十節中言及西乃山所傳之約與上主之應與福音相比較則大相懸殊焉由是而知新約之勝於舊約見加西

三百五十八

[7] シナイ山へのルート図 (p.358)

會幕

有名望者可隨意講解經義論動勸教士即曾於本鄉會堂聚集見此書也 在聖經中又有假處記載耶和華會堂敬誦之事本十三章可謂見於十八節及十九節及二十節及二十一節及二十二節及二十三節及二十四節及二十五節及二十六節及二十七節及二十八節及二十九節及三十節及三十一節及三十二節及三十三節及三十四節及三十五節及三十六節及三十七節及三十八節及三十九節及四十節及四十一節及四十二節及四十三節及四十四節及四十五節及四十六節及四十七節及四十八節及四十九節及五十節及五十一節及五十二節及五十三節及五十四節及五十五節及五十六節及五十七節及五十八節及五十九節及六十節及六十一節及六十二節及六十三節及六十四節及六十五節及六十六節及六十七節及六十八節及六十九節及七十節及七十一節及七十二節及七十三節及七十四節及七十五節及七十六節及七十七節及七十八節及七十九節及八十節及八十一節及八十二節及八十三節及八十四節及八十五節及八十六節及八十七節及八十八節及八十九節及九十節及九十一節及九十二節及九十三節及九十四節及九十五節及九十六節及九十七節及九十八節及九十九節及一百節

二百三十

[8] 幕屋と聖所の図 (p.230)



【10】約櫃（聖櫃）の図と説明 (p.312)



【9】聖所に置かれる燈台（燭台）の図 (p.260)



【12】イエス・キリスト在世時のエルサレム神殿内部の図 (p.332)



【11】イエス・キリスト時代のエルサレムの地図 (p.328)

馬利亞

夫此馬其鎮乃在腓力之舊四百年前爲立國之始... 三百三十六年上溯至二百二十三年...

【14】マリアに関する説明① (p.423)

「マリア」という名の女性についての解説である。当然のごとく、「一」には聖母マリアの説明があり、かのマグダラのマリアの説明は「五」に説かれている。

行

術士

街



【13】エルサレム城内の様子 (p.353)

馬可 馬勒古

是以彼得使天使救之出獄... 乃察明耶穌之仁而兼有上主之德性...

【15】マリアに関する説明② (p.424)

- ていた夏瑞芳、鮑咸恩、鮑咸昌、高鳳池が長老会牧師の費啓鴻の援助を受けて設立させた。初期に主に商業簿記を取り扱っていたため、「商務」の名がついている。
- (9) 宋嘉樹 Charlie Soong (1863?-1918) 清末民初の実業家であり、メソジスト派の宣教師、牧師。孫文の革命を支援した。娘に霽齡・慶齡・美齡（宋家の三姉妹）、息子に子文・子良・子安がいる。
- (10) 宋代初め、知礼がここで天台の教えを広めた場所として知られる。
- (11) Martin, W.A.P 漢名：丁韞良 (1827-1916) アメリカ長老教会の宣教師。1850（道光30）年以後、中国で布教、教育に従事した。京師大学堂（現北京大学）の総教習となり、『天道溯源』を著したほか、『万国公法』を翻訳したことでも知られる。
- (12) 江原素六 (1842-1922) は、旧幕臣で、政治家、教育者。沼津兵学校、静岡師範学校、東洋英和学校、麻布中学校の校長などを歴任した。1877（明治10）年にカナダ・メソジスト教会宣教師によって受洗した、東京YMCAの理事長を務めた。
- (13) 小崎弘道 (1856-1938)。熊本バンドから同志社英学校に転入学し、1879（明治12）年に按手礼を受けた。同志社第二代社長、日本組合基督教会会長、日本基督連盟会長などを歴任した。海老名弾正、宮川経輝と共に、「組合教会の三元老」と呼ばれた。
- (14) Fresnoはカリフォルニア州フレズノ郡の郡庁所在地。かつて日本から移民が渡った土地である。日本語では布市と言われた。
- (15) “THE KEIWA”（敬和学園）第73号 昭和49年5月1日
- (16) 田中景「20世紀初頭の日本・カリフォルニア」写真花嫁」修行—日本人移民女性のジェンダーとクラスの形成—」『社会科学68号 特集文化の中心と周縁の総合研究』同志社大学人文科学研究所 2002年1月31日 pp. 303-334
- (17) 鈴木麻倫子「安孫子家文書から見る桑港日本人YWCAの成立過程」『京都女子大学大学院文学研究科紀要. 史学編』2017年3月15日 p. 5
- (18) 北脇実代子「日本人移民女性を教育すること：1910年代における横浜YWCAの試み」（研究ノート）『研究紀要 CARITAS 第45号』カリタス女子短期大学 2011年3月1日 参照。
- (19) 上掲 鈴木論文 p.13
- (20) 久布白落実（くぶしろおちみ）(1882-1972) 戦前戦後に活躍した女性解放運動家。徳富蘇峰、徳富蘆花の姪。父親の大久保真次郎は、1902（明治35）年にホノルルの日本人教会の牧師となり、1904（明治37）年にカリフォルニア州オークランドの日本人教会に移り、当地で没した。
- (21) 上掲 “THE KEIWA”
- (22) 長田時行 (1860-1939) 明治より昭和初期に活躍した牧師、教育者。築地大学校・横浜バラ塾・同志社等を経て、安中教会で海老名弾正より受洗。1914（大正3）より新潟教会の牧師となり、1923（大正12）年病氣療養のため、新潟教会を辞して東京に転居した。
- (23) 敬和学園高等学校 1968（昭和43）年、キリスト教プロテスタント派の日本基督教団立として開校。全日制普通科の男女共学私立高校。所在地：新潟市北区太夫浜325
- (24) 上掲 “THE KEIWA”
- (25) アメリカ人宣教師 Martin, W.A.P 漢名：丁韞良によって著された古典中国語で書かれたキリスト教の教義解説書。詳細は、拙著『宣教師たちの東アジア—日本と中国の近代化とプロテスタント伝道書』勉誠出版 2015年2月10日 第一部 参照。

(なかむら さとし)